



新年を迎えて

赤司 泰義

YASUNORI AKASHI

(一社) 建築設備技術者協会 会長, 東京大学大学院 教授

新年おめでとうございます。

「昨年是我々の期待に反してコロナ禍が更に拡大・激化し、…」は昨年の年頭所感のフレーズですが（フレーズ中の「昨年」は一昨年のこと）、昨年の感染者数を見るとこれまで以上に大幅に増加したことがわかり、今年も同じフレーズが当てはまりそうです。ただ、本稿執筆時（昨年11月）では、ワクチン接種が進んで重症化が減少し、気持ちの緩和も生じて、全面的なりモートから対面基調への揺り戻しが起きています。そしてGo To事業なども開始されるなど、with コロナの社会生活への移行が本格化しています。一方で、感染者数が再び増加していることもあり、先行きはやや不透明感があります。支部も含めた本協会運営においては、引き続き、役員や職員の方々に多くの気遣いとお苦勞をおかけすると思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

昨年を振り返りますと、本協会にとっての最大のイベントの一つは、JABMEE VISION 2030の大改定を行ったことかと思えます。一昨年から議論を何度も重ね、会員の皆様のご意見も踏まえて、昨年8月に発行しました。初版は2016年度に作成、公表したのですが、ここ数年、建築設備を取り巻く情勢は大きく変化していますので、議論の成果やご意見を反映した形で、本協会が取り組むべき調査研究や本協会の運営方針を全面的に見直したものにしました。本協会ホームページに掲載していますので、是非ご覧いただきたいと思えます。

このJABMEE VISION 2030の大改定に向けた議論においては、建築設備士をはじめとする建築設備技術者の活躍の場を広げることがJABMEEの最重要ミッションであり、そのために会員の学びと社会（個人、企業、自治体、国など）への情報発信の機能を強化す

べきであることが改めて明確になりました。複雑で多様な難題に直面し、価値観も大きく変動している現在では、建築設備の設計、施工、運用、改修はより高度化し、目標設定や目標達成に向けての道筋は画一的ではなくなります。したがって、建築設備への本質的な理解と柔軟な考え方、そして創造的な発想が不可欠で、そのための継続的な自己研鑽とボーダーレスな交流の土台となるコンテンツが必要であることは明らかでした。そこで、そのコンテンツを充実させるために、調査研究の項目を大幅に見直し、ZEB、BCP、BIMに関する従来の取り組みを更に発展させ、それらに加えて、ウェルネス、スマートエネルギー、ICTといったテーマへの取り組みを開始しました。

今回のJABMEE VISION 2030には、調査研究だけではなく、国内外交流、組織運営、会員サービスに関するビジョンが記載されていますが、これらのビジョンをどのようにアクションにつなげ、実効的なものにするかが今年の目標になります。前述の通り、調査研究に関してはそれぞれ既に取り組みを始めていますが、その成果を会員の皆様や社会に十分に届けて、利活用していただくようにすることこそ意味があります。よって、講習会、見学会、シンポジウム等の事業企画やその実施方法、さらには本協会の財政基盤の充実化に向けた収益確保の方法とも関連付けて、総合的に検討していく必要があります。

このように、今年も本協会は組織の活性化と着実な前進に向けて努力を続けて参ります。そして、全国の建築設備士、建築設備技術者の方々の自らのご努力に対しても積極的にサポートしていきたいと思えます。本協会の活動に一層のご理解とご協力を賜りますよう、今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。